

ColdFusion マイグレーション セミナー 2016



2016.6

アジェンダ

- ColdFusion 9 からの移行ポイント
- ColdFusion Administratorの主な変更・注意点
- 昨年のマイグレーションセミナーからの追加情報（※）
- （参考情報）アップデート情報
- （参考情報）ColdFusion 2016 情報
 - 3月に開催したColdFusion 2016リリースセミナーで紹介した内容と同等です

※2015年に行ったマイグレーションセミナーからのアップデート情報となります。昨年のセミナーに参加されていない方はそちらの資料もご参考下さい。

<http://www.samuraiz.co.jp/coldfusion/upgrade/>

ColdFusion 9 からの移行ポイント

製品構成の変更

内部エンジンとインストール体系

Standard 版

Enterprise 版

サーバー設定

マルチインスタンス構成

J2EE構成

9
(JRun Base)



10~
(Tomcat Base)



製品構成の変更 フォルダ体系 (**サーバー設定**)

The diagram illustrates the folder structures for two versions of ColdFusion. On the left, ColdFusion 9 (JRun Base) is shown with a list of folders and files. On the right, ColdFusion 2016 (Tomcat Base) is shown with a similar list. A red box highlights the 'cfusion' folder in the 2016 structure, with an arrow pointing to a 'cfusion' folder icon below it. A red box at the bottom right indicates the 'Tomcat Base' version.

C:\¥ColdFusion9

- bin
- cache
- cfx
- charting
- CustomTags
- db
- gateway
- jintegra
- jnbridge
- lib
- logs
- Mail
- META-INF
- MonitoringServer
- runtime
- solr
- stubs
- uninstall
- wwwroot
- cf_app.ico
- license.txt
- Readme.htm

9 (JRun Base)

C:\¥ColdFusion2016

- cfusion
- config
- jre
- uninstall
- cf_app.ico
- ColdFusionAPIManager_2016
- installer.properties
- license_utf8.html
- Readme.htm

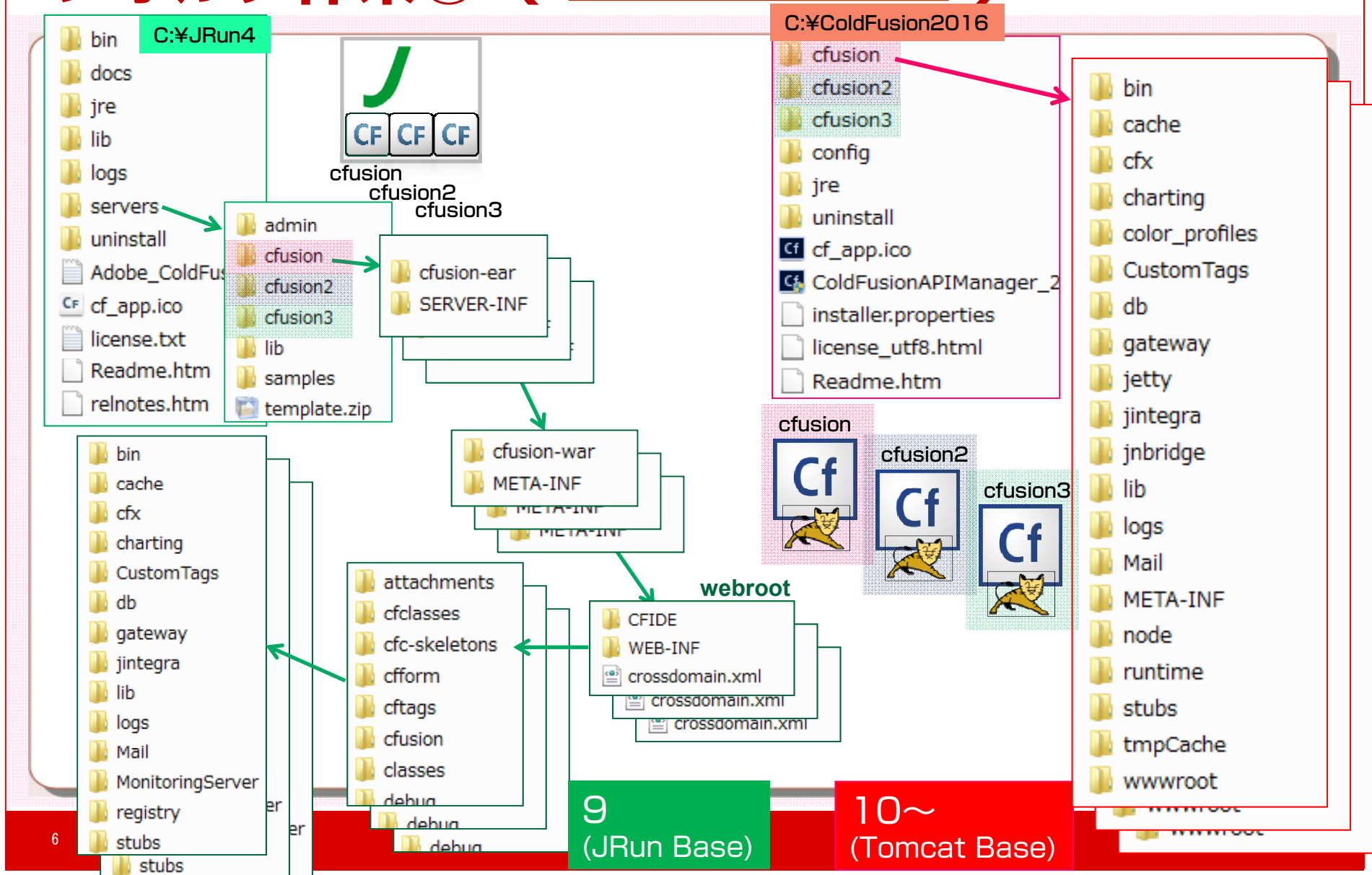
cfusion

- bin
- cache
- cfx
- charting
- color_profiles
- CustomTags
- db
- gateway
- jetty
- jintegra
- jnbridge
- lib
- logs
- Mail
- META-INF
- node
- runtime
- stubs
- tmpCache
- wwwroot

10~ (Tomcat Base)

製品構成

フォルダ体系② (マルチインスタンス構成)



ColdFusion 2016 / 11インストール インストール

■ ColdFusion インストールに関して

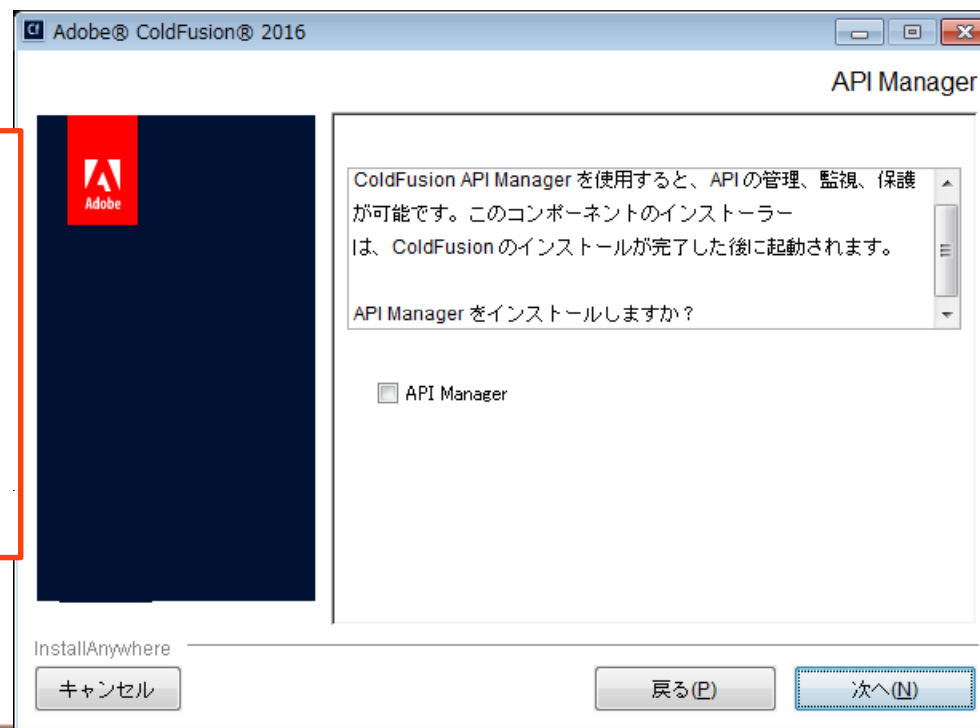
CF9と同様インストーラーによるインストール

Windows版CF11のインストールウィザードの例を下記で紹介

- http://forum.samuraiz.co.jp/samu03_011.html

CF2016は、CF11に加えてAPI Manager の有効化のチェックが追加されている。

Enterprise版のみ有効なオプションであり、API Managerを使用する予定が無い時は選択しなくても良い。



(参考情報)

既存環境へCF2016/11を同居させる場合

- CF9の環境にCF2016/CF11をインストールする際
 - インストール時にCF2016/CF11 ⇔ IIS/Apache 間のWebサーバー接続を行う場合は、CF9 ⇔ IIS/Apache間の接続を**事前に削除する**
 - CF9のWebサーバー接続ツールを使って、既存の接続コネクタ設定を削除
 - 加えて、IIS/ApacheのWebルートにCF9の「**CFIDE**」フォルダが存在する場合、CF9の内蔵Webサーバー([cfroot]/wwwroot)に**移動する**
 - 後からCF9のAdministratorなどを開きたい場合、内蔵Webサーバーを利用するか、異なるWebサイト・Webサーバーに切り替える等を検討
 - 内蔵Webサーバーの有効化/無効化
<http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/coldfusion9/cf9-built-in-web-server/>

※CF2016/CF11⇔IIS/Apache の接続を後で行う事も可能。その場合は「以前のColdFusionインストールを検出」の選択で「内蔵Webサーバーの有効化（共存）」を選択する。

以前の ColdFusion インストールの検出

以前のバージョンの ColdFusion が見つかりました。内蔵 Web サーバーを有効化して、両方のインストールを共存させることができます。または、このコンピューター上の Web サーバーを設定して、ColdFusion 2016 を使用することもできます。

- ColdFusion 2016 用に Web サーバーを設定 (推奨)
- 内蔵 Web サーバーの有効化 (共存)

インストール時の追加項目

サーバープロファイルの選択

- CF10以降に追加され、セキュリティを高めたAdministratorの設定をデフォルトにするかどうかを選択
 - <https://helpx.adobe.com/jp/coldfusion/installing/understanding-coldfusion-server-profiles.html>

The diagram shows three server profiles:

- 開発 (Development):** 高度なデバッグおよび低レベルのセキュリティ設定で開発サーバーを設定するには、このプロファイルを使用します。 (Use this profile to set up a development server with high debugging and low-level security settings.)
- 本番 (Production):** RDS (およびその他のバンドルされたサーバー) を無効にし、中レベルのセキュリティ設定で内部サーバーを設定するには、このプロファイルを使用します。 (Disable RDS (and other bundled servers) and use this profile to set up an internal server with medium-level security settings.)
- 本番 (Production - Secure):** サーバーに対して最高のセキュリティ設定を自動的に設定、有効にし、高度にセキュアな本番サーバーを設定するには、このプロファイルを使用します。 (Automatically set, enable, and use this profile to set up a highly secure production server with the highest security settings for the server.)

The screenshot shows the 'サブレットの有効化/無効化' (Server Profile Activation/Deactivation) dialog box. It contains the following text and options:

有効化または無効化するサブレットを選択/選択解除します。これらのサブレットは、<ColdFusion Web root>/WEB-INF/web.xml で後で有効化または無効化することもできます。:

- RDS
- WSRP
- JS デバッグ
- CF レポート
- CFSWF
- Flash フォーム

Flash フォームの配信を無効にします。

※安全性の高い本番サーバーを運用する場合は、「本番プロファイル(セキュア)」を選択するか、公開前にセキュリティ設定を手動で高く設定する事が推奨されている

インストール終了→初期設定 設定ウィザードを利用して設定を移行

■ CF9と同様、インストール完了後に初期設定ウィザードが起動

- 参考手順 : http://forum.samuraiz.co.jp/samu03_012.html
- CF9 とCF2016 / CF11を同じサーバーにインストールした場合、設定の移行画面が表示され、Administratorの設定を移行できる

※CF9とは別のサーバーにインストールした時も、下記の作業で可能 手順例

1. ColdFusion 2016 / 11 Application Server サービスを停止
2. [CF2016/CF11_root]/cfusion/libで下記の作業を実施
 - a. neo-*.xml と adminconfig.xml ファイルをバックアップ
 - b. cf9settingsフォルダを作成
 - c. [CF9_root]/lib内から neo-*.xml を cf9settings フォルダにコピー
 - d. adminconfig.xmlファイルをエディタ（メモ帳）で開き、下記を変更
 - ① `<runmigrationwizard>true</runmigrationwizard>`
 - ② `<migratecf9>true</migratecf9>`
3. ColdFusion 2016 / 11 Application Server サービスを起動
4. ColdFusion Administrator をリクエスト

設定移行完了後

Administratorで(特に)確認&手動で移行

■ 移行完了後 Administrator 設定画面が開く

- 各設定が移行されているかのチェックと、(特に)データソース設定はデータベースと接続できるかも含めてチェックする
 - 接続できない場合は、ColdFusion以外に要因(例: FireWallで接続ポートが遮断、DB側でTCP/IPが無効)が無いかを、環境面を含めてチェック
 - DBへの接続パスワードを再度入力して接続を試してみる
- データソースの設定の詳細が変更されていないかも確認する
 - 例えば、下記の場合、プールステートメントの最大数は100に変更されるDB2, Sybase, Oracle, MS SQL Server, MySQL(DataDirect)

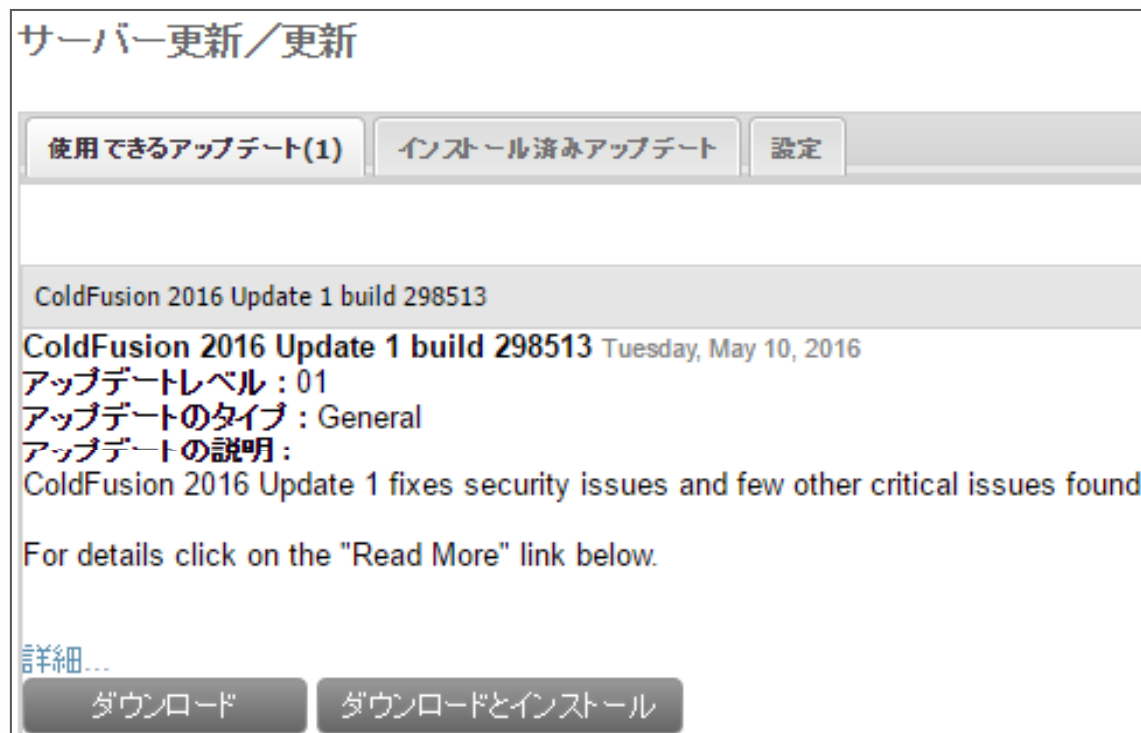
■ 手動で移動が必要なファイルを新環境に移動

- 自分で追加したDatabaseドライバ
- カスタムタグのファイル ([cf9_root]/CustomTags, Java CFX 等)
- 自分で追加したフォントファイル
- その他、自分で追加した 3rd Party の Javaライブラリファイル等
 - [cf9_root]/libや[cf9_root]/wwwroot/WEB-INF/lib 内に独自に配置したファイル・ライブラリ等

インストール後、まず行うこと

CF2016/11アップデートのインストール

- ColdFusion Administratorの[サーバーの更新]で、最新のアップデートをインストールする



※ [サーバー更新]については、この後の Administrator の説明で紹介

プログラムを新環境に移動

■新環境が別サーバーの場合

- 移動先のWebサーバーに .cfm や .cfc (あるいは.cfr や他の処理で使用しているファイル) などを配置する
 - 新環境のIPアドレスやホスト名、配置フォルダ等に変更がある場合は、既存のプログラムに影響がないかの確認が必要となる
- Webルート外に置いてあるファイルやフォルダをCFアプリケーションで使用していないかを確認し、必要ならそれらも忘れずに移行する
 - ColdFusion マッピングで Webルート外に.cfmや.cfcファイル
 - 処理に必要な設定ファイル (.xml や .ini 等) や bat, shell 等
- Webサーバーで仮想ディレクトリ (エイリアス) やなどの設定を行っている場合、移動先でも必要に応じて設定する

■新環境が同じサーバーの場合

- CF2016/CF11 ⇔ IIS/Apacheに切り替わっている事も確認

※一般的な話だが、いきなり本番サーバーを移行する事は失敗した時のリスク等が発生するため、テスト/開発環境でこれらを十分に確認しておくことが望ましい

コードアナライザでエラーチェック

■ Administratorの [デバッグとロギング] - [コードアナライザ]

- 指定したフォルダ内の .cfm / .cfc ファイルの互換性をチェックし、「情報」「エラー」としてリストを出力する
 - 廃止や非推奨、動作の変更があったCFタグや関数
 - CF10以降に追加された関数と同じ名前のユーザー定義関数が存在した場合

デバッグとロギング > コードアナライザ

コード互換性アナライザを利用して、以前のバージョンの ColdFusion からこのバージョンの ColdFusion に移行できます。

このコード互換性アナライザは、指定された CFML ページを調べ、重大な互換性の問題があれば、それを報告します。サポート移行を確実にするために必要な実装の変更を概略します。

コード互換性アナライザ

分析するディレクトリ
C:\ColdFusion2016\cfusion\wwwroot サーバーのブラウズ

サブディレクトリの分析

ファイルタイプの分析 CFM, CFC ▼

CFML の検証

テストするコードのバージョン CF11 ▼

アナライザの実行 拡張子 CF10 CF9

※プログラムコードを機械的にチェックするのみであり、動作の違い等までは分からないため、参考情報としての活用に留める

重要な確認

ページのエンコード判別について

ページに<cfprocessingdirective pageencoding="エンコード">の記載が無い場合

- CF10 以前
 - BOM付き UTF-8 か 検出されたJavaファイルエンコード (MS932等)
- CF2016 / CF11
 - ファイル内容を読み取り自動的にエンコードを判定
- **エンコード判別の変更により確認されている問題**
 - 日本語を含むページのエンコードを誤認識
 - 日本語Shift_JISで作成したページの特殊文字が化ける
- **対策**
 - cfprocessingdirectiveを追加 (ただし全ページに加える必要がある)
 - VM引数に「-Dfile.usesystemencoding=true」を追加
 - VM引数に「-Dsun.nio.cs.map=Windows-31J/Shift_JIS」を追加
- **参考サイト**
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/coldfusion11/cf11-fileencode-problem/>

その他の確認

ライブラリの更新

■ ライブラリの更新

- CF2016 / CF11は、CF9と比べて各種ライブラリのバージョンも上がっているため、テスト等により動作に違いが出ないかを調べる

代表的な事項

- 同梱JDBCドライバ（DataDirect等）の更新や変更・削除等によるDB処理
- ExtJSの更新によるAjax機能の表示等
- Jpedalの更新によるcfprintやPDFイメージ生成処理等
- POIの更新によるスプレッドシート（Excel）処理
- チャート生成エンジンの変更に伴うcfchart処理（→次スライドにて解説）

■ その他留意点

- Java JVMのバージョン変更による動作の影響等
 - 後述（～参考情報～ ColdFusion2016について）の制限等
- yui, spry, report builder 他: CF2016で非推奨・非サポート
 - <https://helpx.adobe.com/coldfusion/deprecated-features.html>

ライブラリの更新（続き）

cfchartの表示の変更

■ チャートエンジンの変更

- CF9 以前： WebCharts3D
- CF10： WebCharts3D + (Enterpriseのみ) ZingChart
- CF11 / CF2016： ZingChart のみ

■ 旧バージョンでスタイルを使用してグラフの表示をカスタマイズしている方は見た目の調整を行う必要がある

(plot, plotarea, legend 属性等で指定)

- 参考サイト

- <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/coldfusion11/cf11-cfchart-tips/>

参考情報

内蔵Webサーバー（開発用途）について

■ CF9に引き続き、内蔵Webサーバーが同梱

- 従来と同様に開発用途に限定される
- 加えて CF2016 ではColdFusion Administratorの設定で使用される

- 旧バージョンと異なり、下記の設定変更は
[cf_root]/cfusion/runtime/conf/server.xml で行う

- ポート番号の変更

- <!-- internal webserver start -->
<Connector executor="tomcatThreadPool"
port="8500" protocol="HTTP/1.1"
connectionTimeout="20000"
redirectPort="8449" />

- 内蔵Webサーバーの起動の有効 / 無効

- コメントアウト → <!-- <Connector … /> -->

※ CF2016 ではAdministratorへの接続に使用されるので、起動を無効にするとAdministratorにも接続できなくなる。無効にする代わりにファイアウォールやポート制限などで内蔵Webサーバーへのアクセスを制限する事も検討する

参考情報

Webサーバー設定ツール(wsconfig)

■ CF9と同様 wsconfig (Webサーバー接続コネクタ)が付属

- wsconfigの設定場所

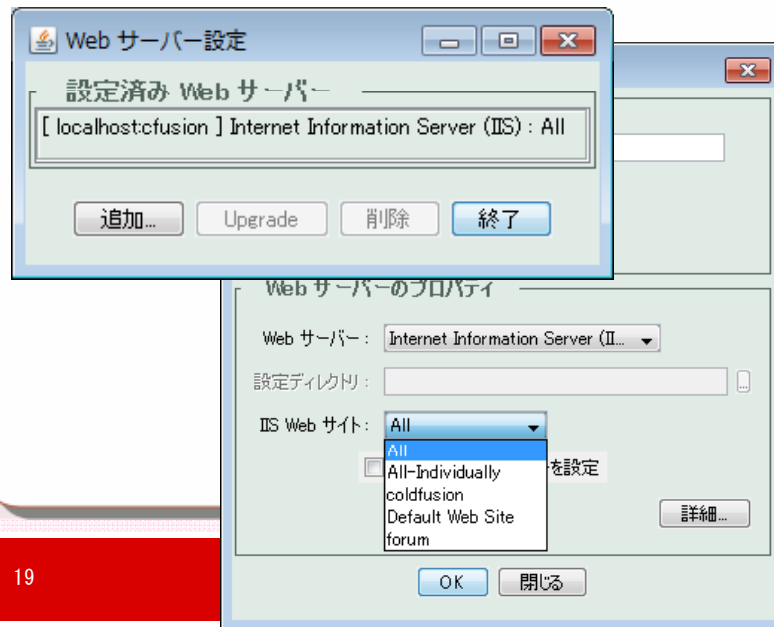
- [cf_root]/cfusion/runtime/bin/wsconfig.exe (Linux: wsconfig)

※設定されたコネクタファイルの置き場所

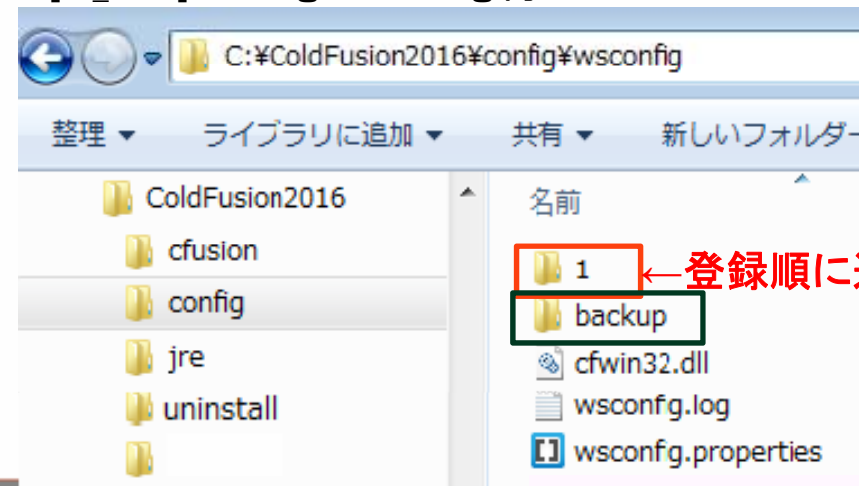
- [cf_root]/config/wsconfig/ 内に 「1」 「2」 「3」 のように作成される

- 参考

- <https://helpx.adobe.com/jp/coldfusion/installing/configuring-your-system.html>



※[cf_root]¥config¥wsconfig 内



↑コネクタ削除・更新時に
既存の設定をbackup

参考情報

登録されるWindowsサービス一覧の違い

■ 標準設定でインストール時の CF9 と CF2016 の差異

- ⚙ ColdFusion 9 .NET Service
- ⚙ ColdFusion 9 Application Server
- ⚙ ColdFusion 9 ODBC Agent
- ⚙ ColdFusion 9 ODBC Server
- ⚙ ColdFusion 9 Solr Service

ColdFusion 9 ではSolr を実行する為に内部でJetty を使用していたが、他の新機能(cfhtmltopdf 等)もJettyに組み込んだため、Add-on Services とサービス名を変更した

- ⚙ ColdFusion 2016 .NET Service
- ⚙ ColdFusion 2016 Add-on Services
- ⚙ ColdFusion 2016 API Analytics Service
- ⚙ ColdFusion 2016 API Datastore Service
- ⚙ ColdFusion 2016 Application Server
- ⚙ ColdFusion 2016 ODBC Agent
- ⚙ ColdFusion 2016 ODBC Server

←Enterprise 版で API Manager を有効にした場合
(この例ではAPI Manager本体は ColdFusion側で統合)

参考情報

サイト情報

■ 昨年のマイグレーションセミナー資料

- <http://www.samuraiz.co.jp/coldfusion/upgrade/>
 - 30ページ：CrLfインジェクション対策
 - 67ページ：IISと接続する際の注意点
 - 68～69ページ：64bit版 ColdFusion について 他

■ ColdFusion Associates よくある質問(FAQ)

- <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/>
技術情報、CF10, CF11, CF2016 情報を掲載中
 - Unixでシステム起動時にColdFusionを自動起動すると英語ロケールになる
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/cf-reboot-locale-unix/>
 - ColdFusion と IIS 7.x との設定を手動で削除したい
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/cf-iis7/>

ColdFusion Administrator

主な変更・注意点

[サーバーの設定]-[設定] リクエストサイズの制限 ①

POST リクエストパラメーターの最大数

- CF9+HF以降より、POSTリクエストで送信する Form変数の数に上限が設けられた
 - CF10 以降、Administratorで設定が可能
 - CF9は設定ファイルを手動で書き換える
 - デフォルトは100。アプリケーション内容に応じて適宜上限を変更。
 - 指定可能な最大数の上限は特に設けられていない。大きな数値を指定する事も可能だが 大量のPOSTパラメーターが送付されてサーバーの負荷が上昇するのを防ぐのが目的の設定なので適切な最大数を指定することが望ましい



サーバーの設定

設定

リクエストの調整

キャッシュ機能

クライアント変数

メモリ変数

マッピング

メール

スケジュールされたタスク

リクエストサイズの制限

POSTリクエストパラメーターの最大数 100

サーバーに送信される POSTリクエスト内のパラメーターが最大制限を超えると、ColdFusionはリクエストを拒否します。

送信データの最大サイズ

単一のリクエストに送信されるデータの最大サイズは、ColdFusionによって制限されています。

HTTPステータス 400 - POST パラメーターが最大制限を超えています。

type ステータスレポート

メッセージ POST パラメーターが最大制限を超えています。

説明 The request sent by the client was syntactically incorrect.

[サーバーの設定]-[設定] リクエストサイズの制限②

送信データの最大サイズ

■ CF8より設定が追加

リクエストサイズの制限

POSTリクエストパラメーターの最大数
サーバーに送信されるPOSTリクエスト内のパラメーターの最大数
します。

送信データの最大サイズ MB
単一のリクエストでサーバーに送信できるデータ量を制限します。指

リクエストのボディサイズの最大値 MB

■ 最大データの最大サイズを超えるファイルをアップロードすると、エラーとなる

HTTPステータス 400 - 送信サイズが最大制限を超えています。

type ステータスレポート

メッセージ 送信サイズが最大制限を超えています。

説明 The request sent by the client was syntactically incorrect.

[サーバーの設定]-[設定] リクエストサイズの制限③

リクエストのスロットルメモリ

リクエストのスロットルしきい値 MB
指定された制限よりも小さいリクエストはスロットルによって処理されません。

スロットルに入れるかどうかの設定

リクエストのスロットルメモリ MB
スロットルの合計メモリサイズを制限します。使用可能な合計メモリが十分でない場合、

同時にアップロード処理を行える
ファイルサイズの合計

- 「リクエストのスロットルメモリ」：100MBの場合

● 例1

- リクエストA：アップロードファイルのサイズ：50MB
- リクエストB：アップロードファイルのサイズ：40MB
- リクエストC：アップロードファイルのサイズ：40MB
 - リクエストC は、A か B のどちらかの処理が終了してから実行される

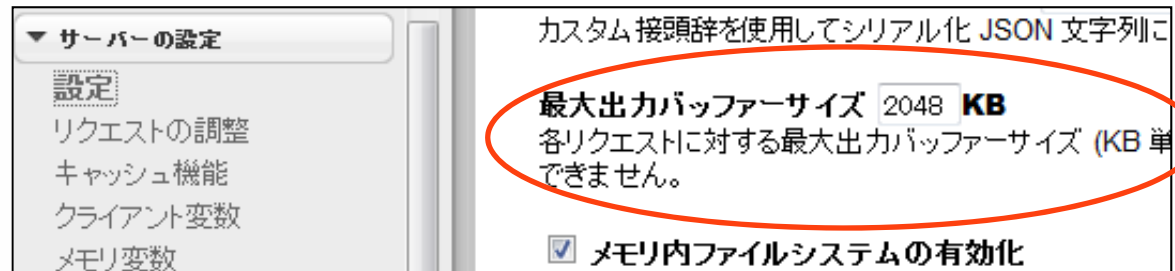
● 例2

- リクエストA：アップロードファイルのサイズ：50M
- リクエストB：アップロードファイルのサイズ：40M
- リクエストC：アップロードファイルのサイズ：90M
 - リクエストC は、A か B のどちらかも処理が終了しないと実行されない

[リクエストのスロットルしきい値] < [送信データの最大サイズ]
[送信データの最大サイズ] < [リクエストのスロットルメモリ]

[サーバーの設定]-[設定] 最大出力バッファサイズ

■ CF10以降、最大出力バッファサイズの制限が新たに追加



- ブラウザに処理の結果として戻すコンテンツのサイズが、上記の値を超えると、超えた時点のコンテンツをFLUSH（そこまでの結果をブラウザに返す）
 - FLUSHされた後にHTTPヘッダに情報を加えるCFタグや関数が実行されると処理が正常に行われない、もしくは、エラーとなる。
 - エラー例：「HTML ヘッダの追加に失敗しました。」
 - 該当タグ（例） cfcontent, cfcookie, cfform, cfheader, cfhtmlhead, cflocation, SetLocale, AJAX機能（cfdiv,cflayout 他）、フォーム機能（cfform, cftextarea 他）、他
 - cfflushタグの説明と同等の制限となる

[サーバーの設定]-[設定]

CFIncludeタグ拡張子制限

- CF11以降は、<CFInclude>タグでインクルードするファイル内のCFMLコードの実行を拡張子で制限可能

CFInclude タグで許可されるファイル拡張子
*
CFInclude タグ内で使用した場合にコンパイルされるファイル拡張子をカンマ区切りリストとして指定します。

- 例えば、aaa.confファイルに<cfset>で変数をセットするようなテンプレートを作成していた場合、上記の欄に「conf」または「*（デフォルト：全て実行）」をセットしていないと、ファイルの内容が処理されない
 - <cfset>などのCFMLの記述がそのままの状態ブラウザに戻るので注意
- Application .cfc の This.compileextforinclude <cfapplication>タグのcompileextforinclude でも指定可

[サーバーの設定]-[設定]

cftoken の UUIDのデフォルト設定の変更

■ 「CFTOKEN用のUUIDの使用」

- CF9 以前：デフォルトOFF
- CF10 以降：デフォルトON（セキュリティ性の向上のため）

cftoken 用の UUID の使用
クライアントとセッション変数 cftoken の値用に、乱数ではなく UUID を使用するよう設定します。

- セキュリティ性を高めるため、乱数ではなくトークン用にUUIDを含んだ固有の値に変更した
- UUIDを変更にした場合、乱数に比べて桁数が増えるため、下記のような場合は注意する
 - プログラム処理の一部やデータベースへの書き込みなどで使用している
 - クライアント変数を使用して指定したデータベースに保存している
 - カラムサイズ以上のデータが渡される可能性

[サーバーの設定]-[設定]

その他の設定

- 「シリアル化用の構造体キーで大文字小文字が保持されます。」
 - 構造体生成時のキー名の大文字・小文字の維持が可能
- 「メモリ内ファイルシステムの有効化」
 - CF9以降に追加されたメモリ内仮想ファイルシステムの設定
- 「名前を付けないColdFusionアプリケーションの作成の有効化/無効化」・
「サーブレットコンテキストへのアプリケーション変数の追加を許可」
 - JSP/サーブレットと相互運用し、Application変数を共有していた場合に影響
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/cf-allowappdatainservletcontext/>

リクエストを処理する際に、エラーが発生しました。

アプリケーション名を指定してください。

名前なしのアプリケーションの作成は、ColdFusion Administrator で無効になっています。

エラーの発生位置 C:/ColdFusion2016/cfusion/wwwroot/cfdemo
/nonameapplication/Application.cfm: line 1
1 : <cfapplication>

- [API Manager]- 「API Manager を起動」・ 「REST 確認を許可」
 - CF2016 Enterprise版のAPI Managerを有効にした際に使用

[サーバーの設定]-[リクエストの調整]

リクエスト設定の変更点

■ 「JRun マスターリクエスト制限」

- CF10以降は廃止 (Tomcatに移行したため)

JRun マスターリクエスト制限 (再起動が必要)

実行中の JRun スレッドの最大数

同時に実行される JRun ハンドラスレッドの最大数。これは、基盤となる JRun J2EE アプリケーションサーバーが同時に実行するページなどの ColdFusion 以外のリクエストも含まれています。一般にこの値は、前述のリクエスト制限の合計 (現在は 30) よりも

実行待ちの JRun スレッドの最大数

JRun が 1 回に受け入れることができるリクエストの最大数です。これは、基盤となる JRun J2EE アプリケーションサーバーが同

■ 「キューのタイムアウト設定」

- CF10以降はEnterprise版でのみ有効

キューのタイムアウト設定

キューで実行待ちのリクエストのタイムアウト 秒

キューにあるリクエストがこの時間を過ぎて実行待ちである場合、リクエストをタイムアウトします。この値は、
ださい。

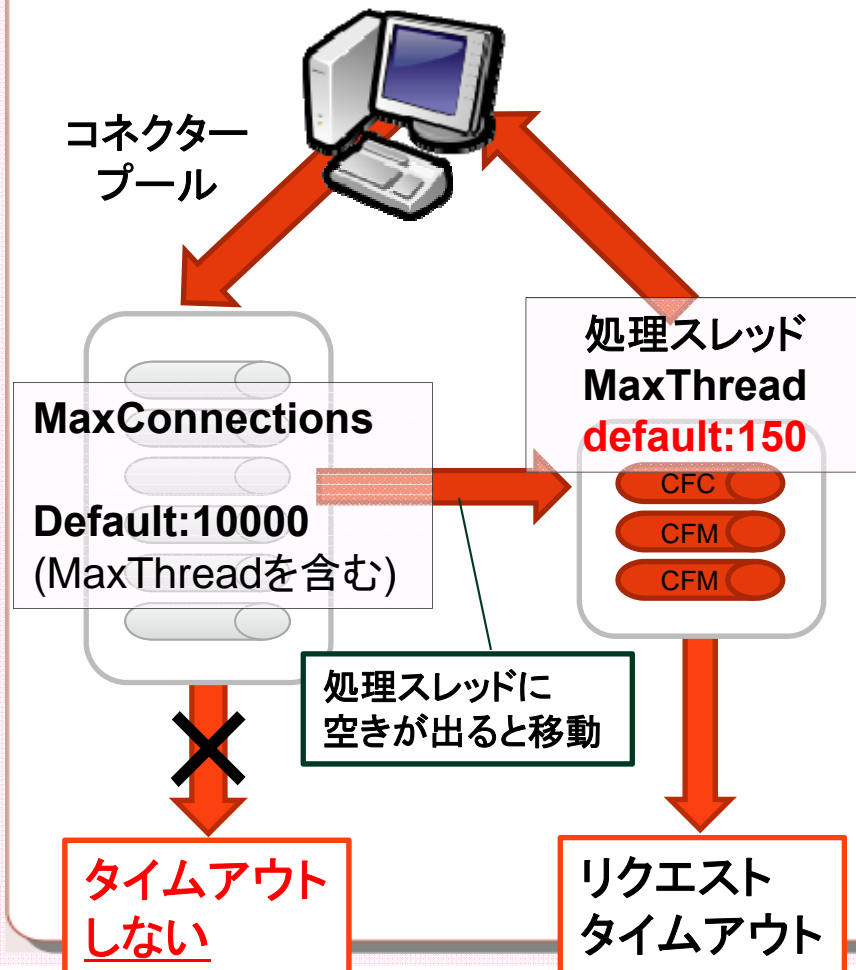
リクエストキューのタイムアウトページ

テンプレートリクエストが実行されずにタイムアウトした場合にクライアントに送信する HTML ページの、Web
CFML を含むページは指定できません。このページを指定しない場合、リクエストが実行されなかったときに

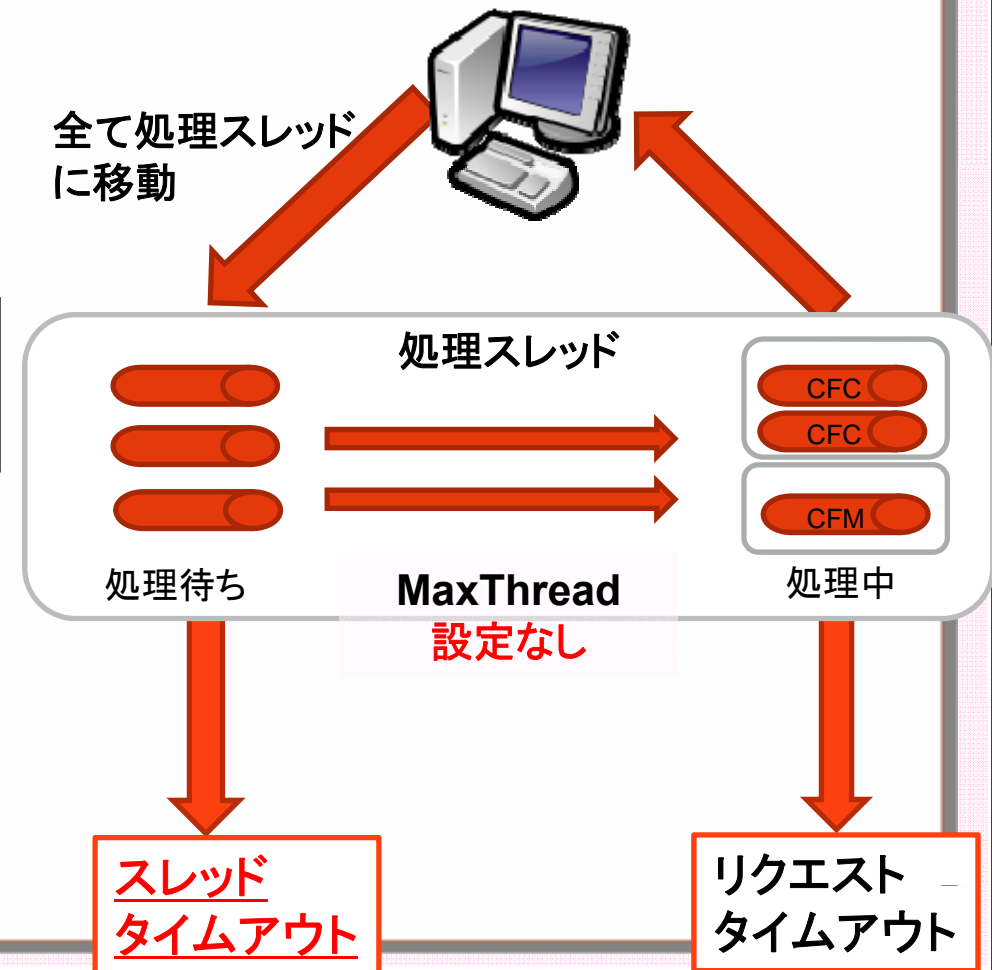
[サーバーの設定]-[リクエストの調整]

処理の違い (CFDay2015サポートセンターセッション資料より)

■ Standard



■ Enterprise



[サーバーの設定]-[キャッシュ機能]

変更・追加点

■ クエリキャッシュの保管先の変更

- CF10からクエリキャッシュの機能が拡張され、デフォルトはehcacheの領域に保管されるようになった
 - 「内部キャッシュを使用してクエリを保存する」
 - 元に（内部キャッシュに）戻したい場合に限り有効にする

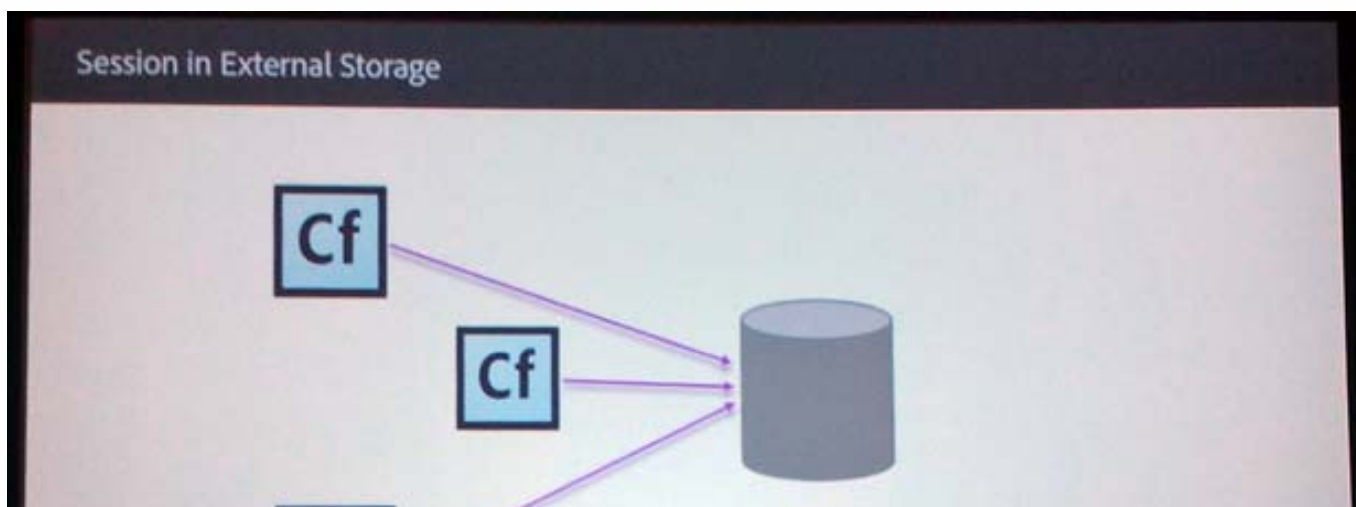
■ テンプレートキャッシュをクリア

- Administrator でクリアできるキャッシュの項目が増えた
 - 特定のフォルダー以下のテンプレートキャッシュをクリア
 - クエリキャッシュをクリア

[サーバーの設定]-[メモリ変数]

セッション変数を外部 (Redis) に保存可能

- CF2016 Enterprise 版のみ設定が可能



セッションストレージ設定

以下の設定は、ColdFusion サーバーがセッション変数を保存する場所を制御します。これらの設定は、J2EE セッション変数を使用するオプションが有効になっていない場合にのみ適用されます。

セッションストレージ

Redis ▼

Redis サーバー

In Memory

Redis

Redis サーバーのポート

0

パスワード

[サーバーの設定]-[メモリ変数] セッションCookie 設定

- CF10以降 AdministratorでセッションCookieの設定が可能
 - 「ColdFusionのタグ/関数を使用して ColdFusionの内部 Cookieを更新できないようにします。」
 - 有効な場合、プログラム上でCFCookieタグ等を使って強制的にCFID, CFTOKENを上書きする処理を行っている場合、エラーとなる

セッション Cookie 設定

次の ColdFusion セッション Cookie のプロパティを、サーバーレベルとアプリケーションレベルの両方で設定できます。ここでは、HTTPOnly を確認してください。暗号化された (HTTPS) 接続でのみ Cookie を使用できるようにするには、セキュア Cookie を有効にしてください。

Cookie タイムアウト 分

HTTPOnly

セキュア Cookie

ColdFusion のタグ / 関数を使用して ColdFusion の内部 Cookie を更新できないようにします。

次の情報は、Web サイト 開発者のデ

リクエストを処理する際に、エラーが

Cookie の設定に失敗しました。

レスポンスに指定した Cookie を ColdFusion で追加できません。これは、ColdFusion のセッション Cookie または認証 Cookie のいずれかを設定するために、この Cookie を使用したためと考えられます。この作業には、アプリケーションまたはサーバーレベルの設定を使用してください。

エラーの発生位置 C:/ColdFusion11/cfusion/wwwroot/sup/sessioncookie /Application.cfm: line 6

```
4 : set them manually as per-session cookies --->
5 : <CFLOCK SCOPE="SESSION" TYPE="READONLY" TIMEOUT="5">
6 : <CFCOOKIE NAME="CFID" VALUE="#SESSION.CFID#">
7 : <CFCOOKIE NAME="CFTOKEN" VALUE="#SESSION.CFTOKEN#">
8 : </CFLOCK>
```

[サーバーの設定]-[スケジュールされたタスク] スケジュールタスク機能強化

■ CF10以降スケジュールタスクが強化(一部はEnterpriseのみ)

- 連鎖タスク (Enterpriseのみ)

	sam_bo	backup_support	連鎖タスク		5/20/2016 2:01:34 午前	
	sam_bo	del_mail_pool	連鎖タスク		5/20/2016 2:20:20 午前	
	sam_bo	sam_bo_backup	2014/07/08 - 無期限	Daily	5/20/2016 2:00:00 午前	5/21/2016 2:00:00 午前

完了時

backup_oracle:sam_bo

現在のタスクの完了後に実行するタスクのカンマ区切りのリスト

- イベントハンドラー (Enterpriseのみ)
- グループ化
- 優先度
- エラーハンドリング (Enterpriseのみ)
- 他

[サーバーの設定]

その他の主な変更

■ [クライアント変数]

- デフォルトのストレージメカニズムが「Cookie」に変更
 - CF9ではRegistryがデフォルトだったが、Registryファイルの圧迫を招くため長らく推奨されていなかった。旧バージョンとの互換性を保つためにRegistryがデフォルトになっていたものをCookieに変えた。

■ [メール]

- 「未配達メールの添付ファイルのダウンロードを許可します」
 - Administratorの[メール]設定にある「未配達メールの表示」画面で、未配達（Undelivrフォルダ内）メールの添付ファイルをダウンロードしたい時
 - 必要無ければ無効が推奨（特に不特定多数のユーザーがメール送信を利用しているシステムの場合、ウイルス等が添付されている可能性もある為）

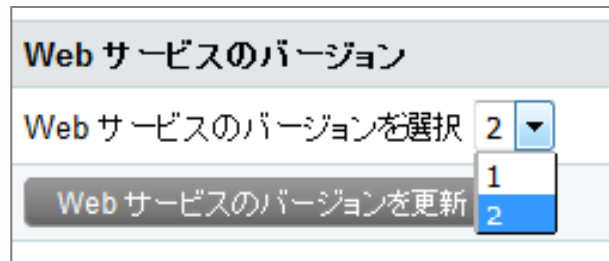
■ [Websocket]

- CF10で追加された WebSocket機能の設定

[データとサービス]-[Web サービス] Webサービスのバージョン

■ 「Webサービスのバージョンの選択」

- CF10以降、Webサービス機能が拡張されてAxis2に対応したため、バージョンの選択が追加された



Web サービスのバージョン

Web サービスのバージョンを選択 2 ▼

Web サービスのバージョンを更新 2

1
2

※上記のバージョン選択は、ColdFusion側から外部に公開するWebサービス(.cfc)をどちらのバージョンでデフォルトとするかの設定

- リモートのWebサービスを呼び出す際のバージョン選択ではない事に注意
 - 呼び出し時のWebサービスのバージョンの指定は、後述の「前回からの更新情報」の「Webサービスバージョン」を参照

[データとサービス] その他の主な変更

■ 削除された設定

- CF9.0.2より、全文検索エンジンVerityが廃止されたため、[Verity K2 サーバー]や[Verity コレクションの移行]メニューが一覧から削除
 - [ColdFusion コレクション]の設定も、後継のSolr用の設定に変更された

■ [REST サービス]

- CF10で追加された REST サービスの設定

■ [PDF サービス]

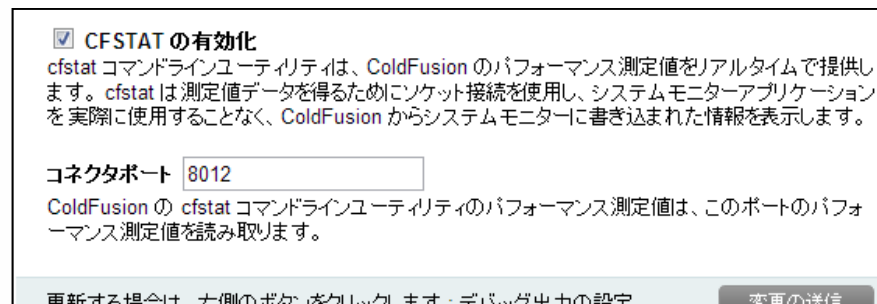
- CF11で追加された cfhtmltopdf 処理の設定

[デバッグとロギング] - [デバッグ出力の設定]

cfstat コネクタポート

■ (Cfstatの) コネクタポートを指定

- Enterprise版のマルチサーバー構成でも cfstat を利用可能に



CFSTATの有効化
cfstat コマンドラインユーティリティは、ColdFusion のパフォーマンス測定値をリアルタイムで提供します。cfstat は測定値データを得るためにソケット接続を使用し、システムモニターアプリケーションを 実際 に使用することなく、ColdFusion からシステムモニターに書き込まれた情報を表示します。

コネクタポート

ColdFusion の cfstat コマンドラインユーティリティのパフォーマンス測定値は、このポートのパフォーマンス測定値を読み取ります。

更新 変更の送信

例：（開発用同梱Webサーバー）デフォルト 8500 (Webサーバーポート)

例：（IIS や Apache と接続）コネクタポート

- [cf_root]/インスタンス（既定cfusion）/runtime/conf/server.xml
 - デフォルト 8016 (CF2016) , 8014(CF11)

```
<!-- Define an AJP 1.3 Connector on port 8009 -->  
<Connector port="8012" protocol="AJP/1.3" redirectPort="8445"  
tomcatAuthentication="false" />
```

■ Enterprise版の拡張: cfstat {秒} → cfstat -x {秒}

- [CF Day 2014 「ColdFusion 技術サポート ホットトピックス」資料](#)

- <http://www.samuraiz.co.jp/event/report/cfday2014/>

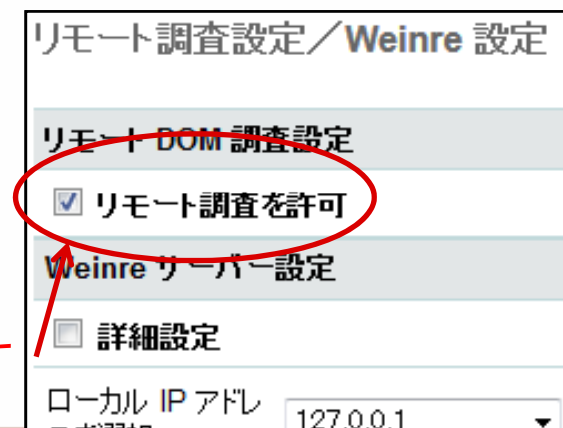
[デバッグとロギング] - [リモート調査設定] モバイルアプリ向けデバッグ機能

- CF2016 / CF11で [開発プロファイル]を選んでインストールすると、リモート調査設定の「リモート調査を許可」がデフォルトで有効になる
 - CF11より追加されたモバイルアプリ開発機能を利用しない場合は、この機能は不要
 - 「リモート調査を許可」が有効場合、ブラウザの[戻る]操作の際に、「Webページの有効期限切れ」になる
 - 「Cache-Control:no-cache …」やExpires、Pragmaが追加される

▼ Response Headers [view source](#)

```
Cache-Control: no-cache, no-store, must-revalidate, max-age=0  
Content-Length: 21930  
Content-Type: text/html; charset=UTF-8  
Date: Wed, 07 Jan 2015 09:28:13 GMT  
Expires: Thu, 01 Jan 1970 00:00:00 GMT  
Pragma: no-cache  
Server: Microsoft-IIS/7.5  
X-Powered-By: ASP.NET
```

チェックを外す



[デバッグとロギング] / [ColdFusion サーバーの監視]

その他の設定

■ [デバッグ出力の設定]

- メトリクスのロギングを有効にする・メトリクスの頻度

メトリクスのロギングを有効にする
ColdFusion のメトリクスのロギングを有効にするには、このオプションを選択します。

メトリクスの頻度
ColdFusion のメトリクスは、この頻度でログに記録されます。

- CF9ではJRunの機能として用意。CF10以降でも同等の機能を有するようにオプションが追加された。
 - ログへの出力が増えるため、使用環境・頻度には注意する。

■ [監視設定] ※Enterprise 版のみ

- サーバーモニターの監視／設定
 - 監視のON/OFFをここで設定可能に
- 監視サーバーを有効にする
 - サーバーモニターを独立して起動したい場合に有効にする

[セキュリティ] - [使用できる IP アドレス] Administratorへのアクセス制限

- CF2016 / CF11では、Administratorへのアクセスの制限をIPアドレスで制限可能
 - *CFIDE/main/**
 - CFIDE/adminapi/**
 - CFIDE/administrator/**
 - CFIDE/componentutils/**
 - CFIDE/wizards/**
 - CFIDE/servermanager/**

ColdFusion Administrator および ColdFusion Internal Directories にアクセスできるクライアント IP アドレスを指定します。個別の IP アドレス、10-30 の形式の IP アドレス範囲、ワイルドカード * を指定できます。IPv4 と IPv6 の両方のアドレスがサポートされます。IP アドレスをリストに含めるには、アドレスを入力して「追加」をクリックします。IP アドレスをリストから削除するには、アドレスを選択して「選択の削除」をクリックします。IP アドレスを選択しないと、すべてのユーザーがアクセスを許可されます。

ColdFusion Administrator および ColdFusion Internal Directories にアクセスするために使用できる IP アドレス

IP アドレス

追加

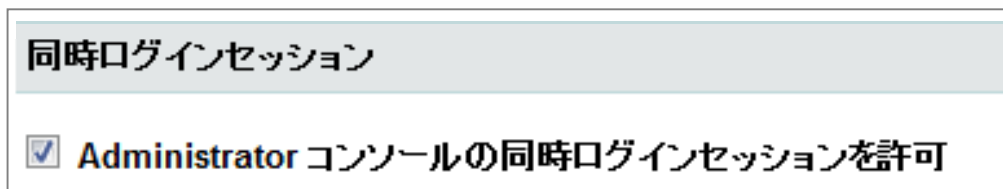
選択の削除

[セキュリティ]

その他

■ [Administrator]

- 「Administratorコンソールの同時ログインセッションを許可」
 - 複数の環境で同じユーザーの同時ログインを許可したい場合はチェック



The screenshot shows a configuration window titled "同時ログインセッション" (Simultaneous Login Sessions). Below the title, there is a checked checkbox followed by the text "Administrator コンソールの同時ログインセッションを許可" (Allow simultaneous login sessions for the Administrator console).

■ [RDS]

- 「RDS サービスを有効にする」
 - RDS機能の有効/無効を CF9+HF以降 Administrator で設定できるように
 - セキュリティの脅威となるため、本番環境などでは有効にしない事

■ [セキュアプロファイル]

- 「セキュアプロファイルの ON/OFF」
 - セキュリティ強化を目的とした設定を一括で行えるが、何の設定が変わるかを確認し、変更後、必要に応じて手動で変更を行う

[サーバー更新] - [更新]



Adobe ColdFusion 2016 Release Administrator



ログアウト

■ CF10以降はアップデートをAdministratorから行える

下記のような内容がアップデートに含まれる

- バグフィックス、セキュリティ問題の修正
- 内部エンジン(Tomcat), Webサーバー接続コネクタのアップデート
- ドライバや同梱されているライブラリの更新
- 最新のJava VMへのサポート

■ 注意点

- 最新のアップデートには**過去の修正も含まれる**
 - いくつかのアップデートをスキップして最新パッチを適用する際は、過去の修正が影響した問題が発生しないかも調べる
 - Webサーバーのコネクタなど、アップデート後に追加の手順が発生する場合がある
- 不具合の内容によっては、**手動で作業を行う場合もある**
 - 現時点で CF10のみ： 必須のアップデート（証明書の書換え）

昨年のマイグレーションセミナー からの追加情報

サポートするVM

バージョン別 サポートVM

ColdFusionがサポートするJava VMは、新バージョンやアップデートのリリース時に更新されます（新しいJava VMに切り替える際は、各自でOracle社のサイトから該当するモジュールをダウンロード・インストールして下さい）

■ CF2016

- Java 8 のみ

■ CF11

- (Upd 3以降) Java 8, 7
- Java 7

■ CF10

- (Upd 14以降) Java 8, 7, 6
- (Upd 8~13) Java 7, 6
- Java 6

※2012年9月より、Javaサポートに関するポリシーが変更され、最新のマイナーアップ（リビジョン）もサポート対象となりました。

Java自体のセキュリティの問題が発覚した際は、深刻度に応じて最新のマイナーバージョンに切り替えることを推奨します。

CF11 Update 8 / 2016で動作の変更

cfhtmltopdf

- <cfhtmltopdf>～</cfhtmltopdf>内に挟み込んだ HTMLを PDF化する際のエンコードの変更
 - CF11 Updなし ～ 7
 - 内部で Shift_JIS に変換してからPDFに変更
 - **CF2016, CF11 Upd 8 以降**
 - 内部で UTF-8 に変換してからPDFに変更する
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/coldfusion11/cf11upd8-cfhtmltopdf/>

```
<cfhtmltopdf>
<html lang="ja">
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
</head>
<body>
  <h1>テスト</h1>
  <h2>test</h2>
  <h3>テスト</h3>
  <h4>test</h4>
  <h5>テスト</h5>
  <h6>test</h6>
</body>
</html>
</cfhtmltopdf>
```

→ charset=UTF-8 に変更

CF11 以降で動作の変更

cfprocparam

■ cfprocparamの動作の変更

- MXより dbvarname属性は無視されるようになったが、CF11から復活
 - 古いdbvarname属性がそのまま残っているとエラーが発生する可能性
 - CF11では無視するためのJVM引数があった
 - Dcoldfusion.ignoredbvarname=true
- CF2016では ignoredbvarname が使えない (事前予告済)
 - 古いバージョンから CF2016 にバージョンアップした際、ストアドプロシージャーの呼び出しを使用しているプログラムにdbvarname属性が指定されたままになっていた場合、指定した値の変更やdbvarname属性の削除が必要になる場合がある
 - 例：変数の名前付きパラメーター使用時
Oracle ":"、SQLServer "@"
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/coldfusion2016/cfprocparam-dbvarname/>

※メーカーブログ

<http://blogs.coldfusion.com/post.cfm/coldfusion-11-and-dbvarname-attribute>

CF11以降の機能強化

クエリオブジェクト→JSON変換

■ 構造体生成時のキー名の大文字・小文字の維持が可能

- ColdFusion Administrator の [設定]
 - 「シリアル化用の構造体キーで大文字小文字が保持されます」
- Application.cfc
 - `this.serialization.preserveCaseForStructKey=true/false;`

■ 加えて、CF11 Upd5 以降 / CF2016

- クエリオブジェクトのJSON変換時にテーブルのカラム名の大文字・小文字を維持する事が可能に
 - Application.cfc

```
<cfscript>
  this.name="cfdemo_cf11";
  this.serialization.preserveCaseForStructKey=true;
  this.serialization.preserveCaseForQueryColumn=true;
</cfscript>
```

Webサービス バージョン

■ ColdFusion から外部のWebサービスを呼び出した場合

- CF9 以前

- Webサービス バージョン 1 で実行

- CF10 以降

- Webサービス バージョン 2 または 1 で実行
 - 実行時のバージョンは、内部で自動判別される

■ 呼び出し時のWebサービスのバージョンが自動判別される事によりエラーが発生するようになった場合の対処

- 呼び出し時のバージョンを Axis 1 に固定する設定が、アプリケーションレベル (Application.cfc) または プログラムレベルで用意

- アプリケーションレベル (Application.cfc)
`this.wssettings.version.consume = "1"`
- プログラムレベル
`createObject("webservice", "外部webサービス", {wsversion="1"})`
`<cfinvoke webservice="..." method="..." wsversion="1">`

XSLT

■ ColdFusion でXSLTの処理を行った際

- CF9 以前
 - XSLT1で実行
- CF10 以降
 - XSLT2で実行

■ XSLTのバージョンが変更されることで、問題が発生した場合、内部パラメーターでXSLT1を指定する (CF11/2016で確認)

- ColdFusion Administratorの[Java と JVM]の「JVM引数」または `jvm.config` (`[cf_root]/cfusion/bin/jvm.config`) の `java.args`
 - `-Dcoldfusion.xml.usexslt1=true`

※アプリケーションごとやプログラムごとにバージョンを変えることはできないので注意

cfhttp httpsリクエスト時の 対応プロトコル

- <cfhttp>でHTTPSリクエストした際、接続先がセキュリティを強化して SSLv3やTLS1.0、1.1を無効にしていた場合
 - CF2016 / CF11 Upd3~+Java1.8 / CF10 Upd14~+Java1.8
 - Java1.8はデフォルトのTLSプロトコルがTLS1.2のためそのまま動作
 - CF11+Java 1.7 / CF10 Upd18~+Java 1.7
 - Java1.7はデフォルトのTLSが1.0なので、JVMに引数を追加する
 - ColdFusion Administrator の [Java と JVM]の「JVM引数」 または jvm.config ([cf_root]/cfusion/bin/jvm.config) の java.args
 - -Dhttps.protocols=TLSv1.2
 - CF10 Upd8~17では、デフォルト (TLS1.0) 以外に変更できない
 - 追加の設定ができないので、10 Upd18以降にあげる
 - CF10+Java 1.6
 - Java 1.6はサポートするプロトコルが古いTLS1.0かSSLv3のみとなり TLS1.2などには接続できない

※上記にも関わらずhttps接続に失敗する場合、接続先が対応する暗号化通信や証明書の再確認、JVMのリビジョンアップなどを検討する

ポートの競合による起動失敗

- 複数バージョンのColdFusionを同じPCにインストールし、デバッガオプションのポートの値が同じ場合、ポートの競合が発生して2つ目以降が起動できない

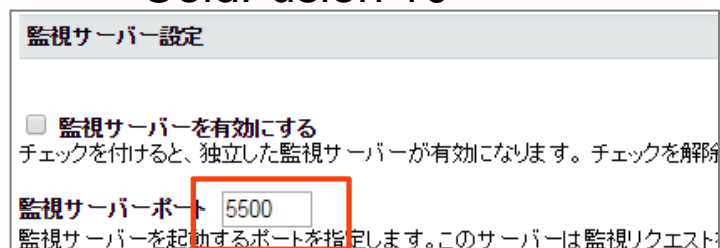
- デバッガを無効にするか、ポート番号を変更する

- <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/cf-admin-debugger/>

- (Enterprise版) サーバーモニター用の監視サーバーポート

- CF11以降は自動割り当てになったが、複数インスタンスを同時に起動した場合などに競合が発生して起動に失敗する場合がある

ColdFusion 10

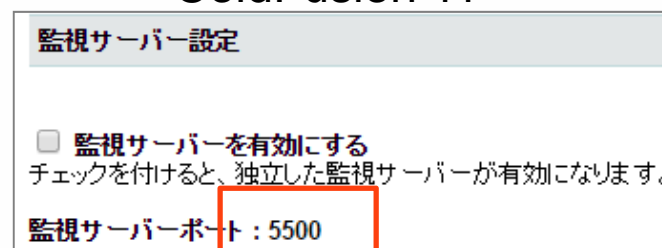


監視サーバー設定

監視サーバーを有効にする
チェックを付けると、独立した監視サーバーが有効になります。チェックを解除

監視サーバーポート
監視サーバーを起動するポートを指定します。このサーバーは監視リクエスト

ColdFusion 11



監視サーバー設定

監視サーバーを有効にする
チェックを付けると、独立した監視サーバーが有効になります。

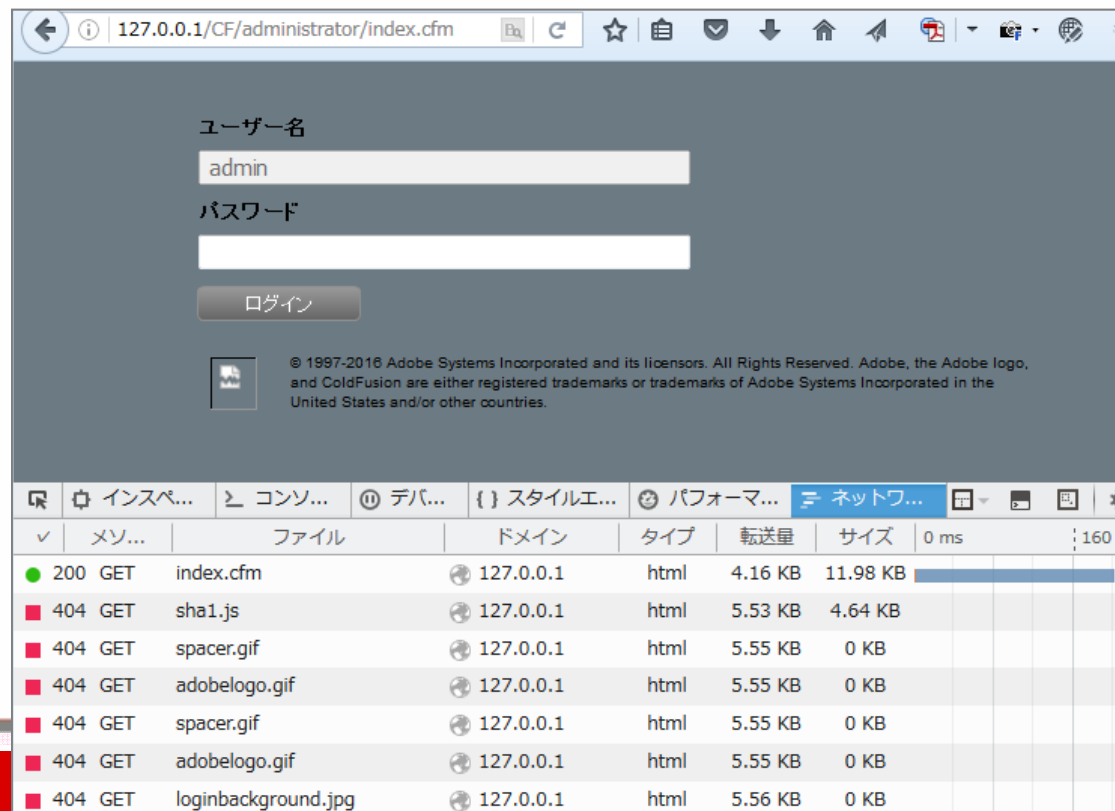
監視サーバーポート : 5500

cookie値がnullの際の挙動 (empty string)

- cfcookie で値が無い Cookie を発行した場合
 - CF10 以前
 - cookie_name=""
 - CF11 以降
 - cookie_name=
- 渡される Cookie が null(empty string)の場合、ColdFusion 内部で Cookie変数としては参照できない
 - 回避：
 - #FindNoCase("cookie_name=;",cgi.HTTP_COOKIE)#
 - 0で無ければcookie_nameでBLANKのcookieが存在している
 - Cookieを「cookie_name=""」に設定する

ColdFusion Administrator にログインできない

- サーバーOS上の Internet Explorer は、「Internet Explorerセキュリティ強化の構成」というJavaScriptの実行やダウンロードが禁止する機能がある
 - JavaScriptが無効な状態では ColdFusion Administrator はログインできない



乱数の使用による処理待ちの発生

■ (主にLinux環境で) ColdFusionの内部処理で乱数を使用している箇所で処理の遅延が発生する場合がある

- cfhttpが複数回同時に実行される場合 (昨年のセミナーでも紹介)
- タスクスケジュールの処理
- インストール後の初期ウィザードで旧バージョンの設定を移行する際
 - 下記の例では CF9 の設定を CF11 に移す際に報告あり
<https://bugbase.adobe.com/index.cfm?event=bug&id=3850033>
- 一部のデータベース接続時
 - Oracleへの接続時に発生した報告あり

■ 回避方法

- 乱数の生成処理にプールを再利用する動作に変更する
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/aboutcf/cf10-cfhttp-response/>
 - <http://blogs.coldfusion.com/post.cfm/optimizing-cfhttp-calls-on-linux-systems>

Apache virtualhost 使用時の注意点

- Flash RemotingやCFFileServlet(画像処理など)が404エラーとなる報告あり

mod_jk.confファイル内

```
JkMountFile "/opt/coldfusion2016/config/wsconfig/1/uriworkermap.properties"
```

- Apache=ColdFusion間のWebサーバーコネクタ(mod_jk)の変更により、JkMount が、VirtualHost 内では無効となったため
- 回避は各Virtualahostで JkMount を明示的に指定するか、mod_jkのオプション (JkMountCopy) を指定する

参考

- <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/apache-virtual-host-404/>

cgi.path_info

■ CGI.Path_Info で取得される値

- xxx.cfm のURLの後に更にURLが存在する場合にその文字列を返す動作がCGI.Path_Infoの本来の仕様
- 例1 : `http://127.0.0.1:8500/sup/cgi.cfm/aaa/bbb?ccc=ddd`
 - 全バージョンの `cgi.path_info`
 - /aaa/bbb (問題なし)
- 例2 : `http://127.0.0.1:8500/sup/cgi.cfm`
 - CF9 以前の `cgi.path_info`
 - /cgi.cfm (←この値が取得できるのが間違いだった)
 - 上記のような情報を取りたい場合は、`cgi.script_name (/sup/cgi.cfm)` をベースに作り込む
 - CF9+HF、CF10、CF11、CF2016 の `cgi.path_info`
 - なし (`empty_string`)

セッションID(CFID, CFTOKEN)の扱い

■ CF9+HF, CF10以降で動作に変化

- 発行していないCFID, CFTOKENでCFサーバーにリクエストが来た場合送られてきた値は破棄して、新しいセッションとしてIDを発行し直す
- タイムアウト後にサーバーにリクエストすると、それまでのCFID, CFTOKENを破棄して新しいセッションIDを発行する

■ 注意点

- クラスタ環境等で、違うサーバーに処理が移った時に、セッションIDが切り替わり、セッションが維持できなくなる
- CFID, CFTOKENの値を何らかの処理に使っていた場合（独自の識別をしていた場合など）、タイムアウト後にそのIDを使い回せない

■ 以前の動作に戻す

- 従来のセッションIDの固定化を希望する場合は、起動パラメーターに値(-Dcoldfusion.session.protectfixation=false)を追加
 - セッションIDの固定化は、セキュリティ上の脆弱さを招くため、状況に応じた追加の対処が必要となる場合がある事に留意

OutOfMemoryエラー

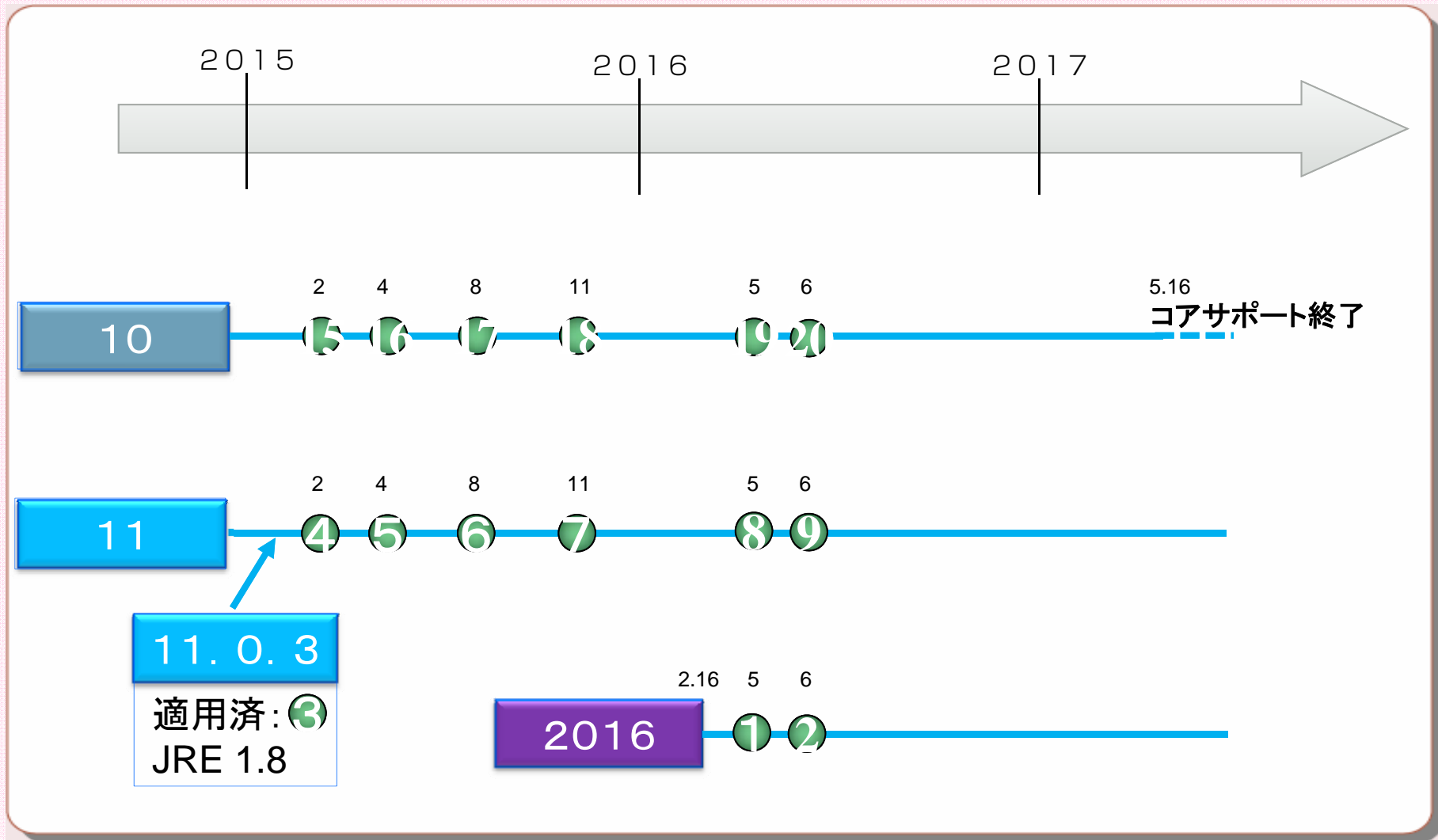
■ ColdFusion 運用中 OutOfMemory エラーが発生した場合

- 処理の途中でヒープメモリの枯渇により処理が継続できない

- エラーの発生前後は、ヒープメモリが使用可能なメモリを解放するために頻りに GC を繰り返し、結果としてCPUが高負荷状態となり、サーバー全体の処理が遅く（重く）なる場合がある
- エラーが発生するタイミングで、ColdFusion内部で実行中の処理が停止し、以後、その処理が正しく動かなくなる場合がある
 - 例：メール送信できなくなる
Spoolフォルダを定期的にチェックし、メールを送信する処理が停止したため、以後のメール送信ができない
(Spoolフォルダにメールファイルが残ったままになる)
- 対応策（例）
 - 大量のメモリを使用する処理を見直す
 - 大量のクエリデータ取得、長時間のタスク、大きな xlsxファイル処理
 - ヒープメモリサイズの割り当てを増やす
 - Administrator [JavaとJVM]の最大 JVM ヒープサイズ (MB)
 - java.lang.OutOfMemoryError: Metaspace → MaxMetaspaceSize
 - java.lang.OutOfMemoryError: PermGen space → MaxPermSize

～ 参考情報 ～
アップデート情報

アップデート情報 Update年表 2015~



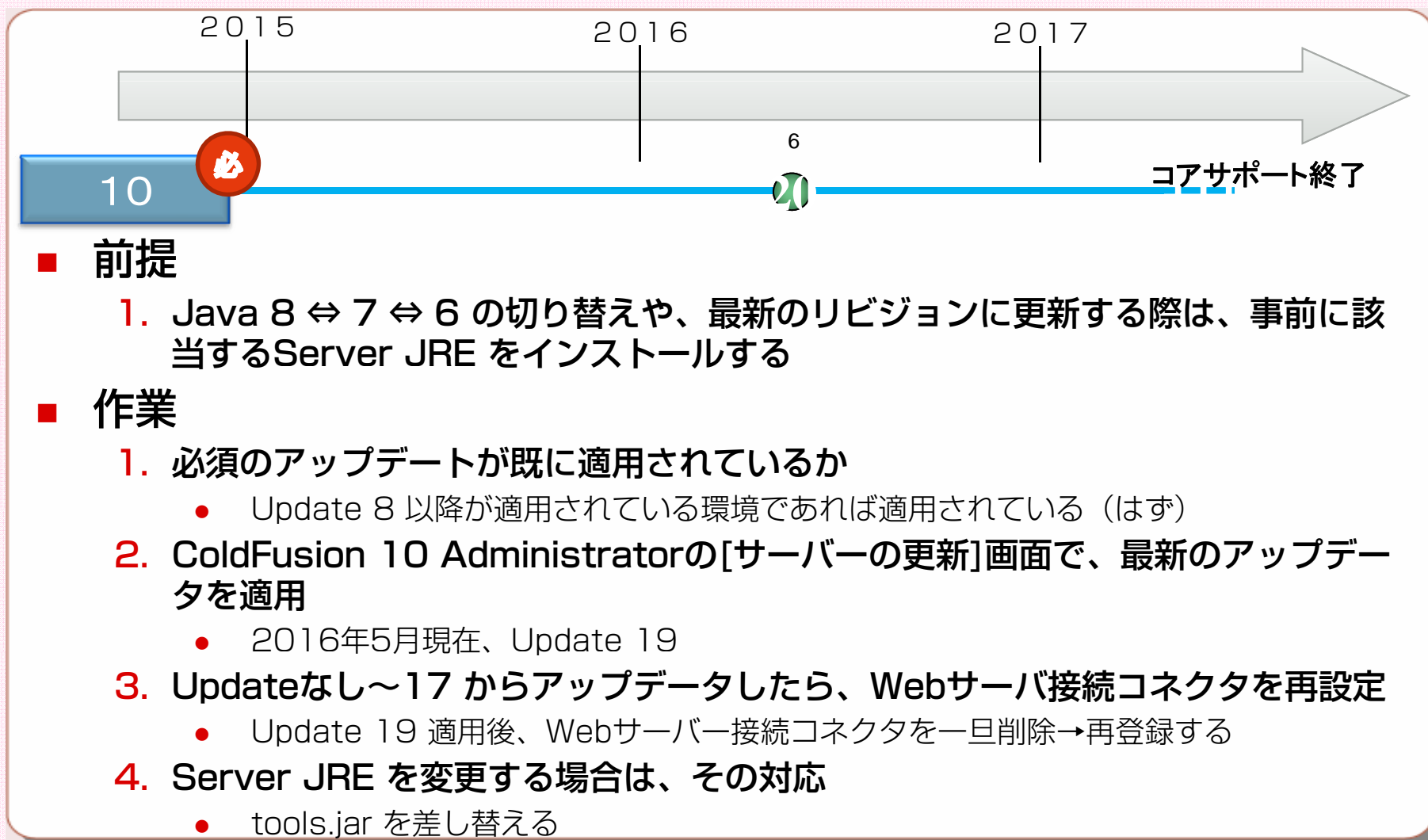
アップデート情報

ColdFusion 10 Update 17~20



- セキュリティ問題（「優先度2：重要」の修正）
 - 17、18、19、20
- バグフィックス
 - 18、19、20
- 内部エンジン Tomcat のアップデート
 - 18 (7.0.64)
 - 19 (7.0.68)
- Webサーバー接続コネクタのアップデート
 - 18 (1.2.41)

ColdFusion 10 を最新の状態にする



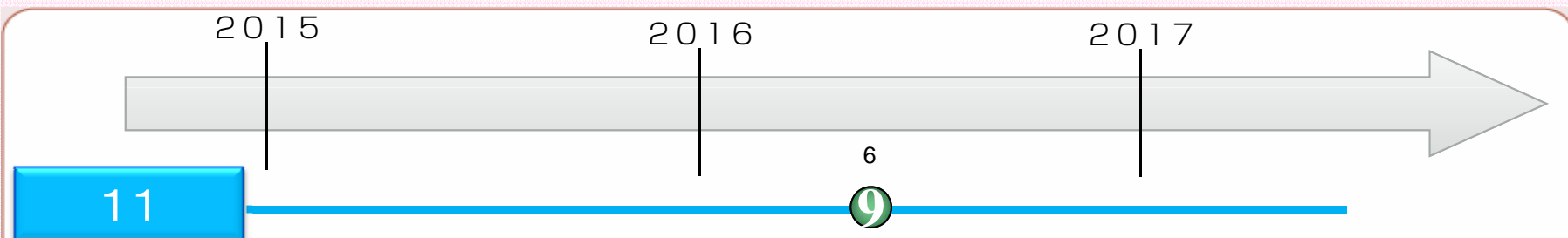
アップデート情報

ColdFusion 11 Update 6~9



- セキュリティ問題（「優先度2：重要」の修正）
 - 6、7、8、9
- バグフィックス
 - 7、8、9
- 内部エンジン Tomcat のアップデート
 - 7 (7.0.64)
 - 8 (7.0.68)
- Webサーバー接続コネクタのアップデート
 - 7 (1.2.41)

ColdFusion 11 を最新の状態にする



■ 前提

1. Java 8 ⇔ 7 の切り替えや、最新のリリースに更新する際は、事前に該当する Server JRE をインストールする

■ 作業

1. ColdFusion 11 Administratorの[サーバーの更新]画面で、最新のアップデートを適用
 - 2016年5月現在、Update 8
2. Updateなし～6 からのアップデートする場合、Webサーバー接続コネクタを再設定
 - Update 8 適用後、Webサーバー接続コネクタを一旦削除→再登録する
3. Server JRE を変更する場合は、追加の対応を行う
 - tools.jar を差し替える

アップデート情報

ColdFusion 2016 Update 1~2

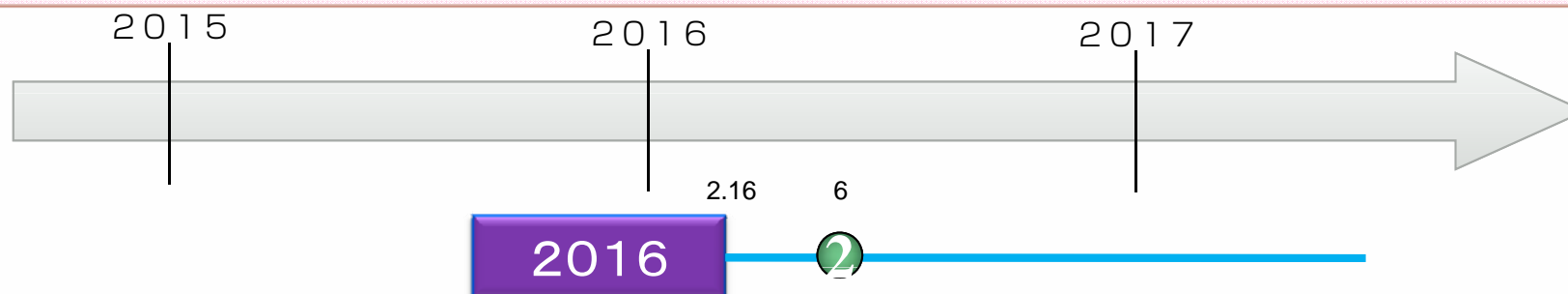


- セキュリティ問題（「優先度2：重要」の修正）
 - 1、2

- バグフィックス
 - 1（先に修正が必要なものを先行）
 - 2（バグフィックスとして70個を超える修正）

- 内部エンジン Tomcat のアップデート
 - リリース時 (8.0.27)
 - Update 1 (8.0.32)

ColdFusion2016を最新の状態にする



■ 前提

1. Java Server JREを最新のリビジョンに更新する際は、事前に該当するServer JRE をインストールする

■ 作業

1. ColdFusion 2016 Administratorの[サーバーの更新]画面で、最新のアップデートデータを適用
 - 2016年6月現在、Update 2
2. Server JRE のリビジョンを最新のものに変更する場合は、その対応
 - Java 1.7など前のバージョンでは動作しないので注意

～ 参考情報 ～
ColdFusion 2016 について

その他

サポートプラットフォームの主な変更点

■ OS, Webサーバー

- サポートバージョンの変更や廃止 (Windows 2003, OpenSuse, 他)
- Apache は 2.4.X のみサポート

■ J2EE (Enterpriseのみ)

- WebSphereは未サポート。その他 サポートバージョンの変更等
 - WebSphere 8.5 は IBM JDK 1.7のため。WebSphere 9 リリース後、WebSphere をサポート予定

■ DB

- Microsoft Accessは未サポートへ
- 他のDBもサポートバージョンが変更されているものあり

<https://helpx.adobe.com/pdf/coldfusion2016-support-matrix.pdf>

インストール時の注意点

- API Manager は CF2016 Enterprise版と 試用版（デベロッパー版はNG）のみ使用（インストール）可能
- API Manager はColdFusionとは別のインストーラーでインストールされる



インストール時の注意点

■ ColdFusion Administrator へのアクセス

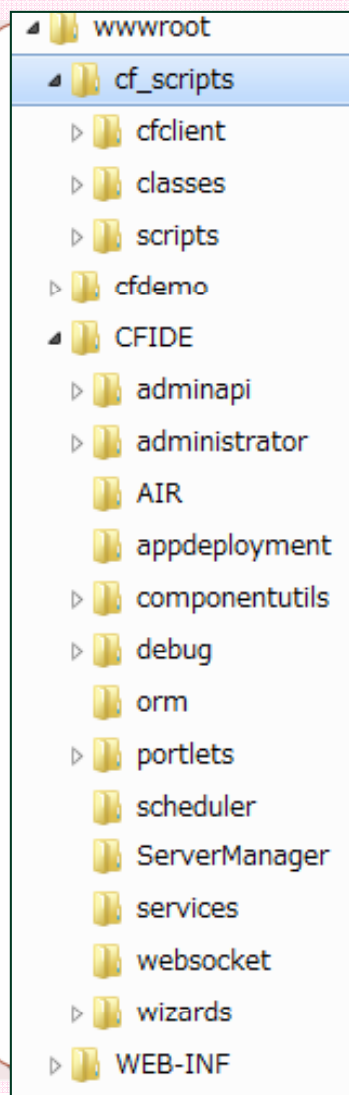
- 外部Webサーバー（IIS, Apache等）とのコネクタを設定した際、従来のCFIDEへの仮想ディレクトリ設定をColdFusion 2016では行わない

The image shows two side-by-side file explorer windows comparing the directory structures of ColdFusion 2016 and ColdFusion 11. Both show a 'Default Web Site' folder containing 'aspnet_client', 'cf_scripts', 'jakarta', 'sup', and 'test'. The ColdFusion 11 version includes a 'CFIDE' folder, which is absent in the ColdFusion 2016 version. Below each window is a label: 'CF2016設定時' and 'CF 11設定時'.

On the right is a screenshot of the 'Adobe ColdFusion 2016' installation wizard. The window title is 'Adobe® ColdFusion® 2016'. The main text reads: '内蔵 Web サーバーポート番号' (Built-in Web Server Port Number). Below this, it says: 'Adobe ColdFusion 2016 内蔵 Web サーバーは、ポート 8500 を使用するように設定されます。別のポートを指定することもできます。' (Adobe ColdFusion 2016 built-in Web server is configured to use port 8500. You can also specify a different port). A text box labeled 'ColdFusion サーバーポート:' contains the value '8500'. At the bottom, there are buttons for 'キャンセル' (Cancel), '戻る(B)' (Back), and '次へ(N)' (Next).

- インストール時にIISやApacheを選択しても、内蔵のWebサーバーが有効化され（ポートは変更可）、Administratorへのアクセスに利用される
 - 内部Webサーバーへのリモートからのアクセス制御が必要な場合は検討

CFIDE内からscriptsフォルダを分離

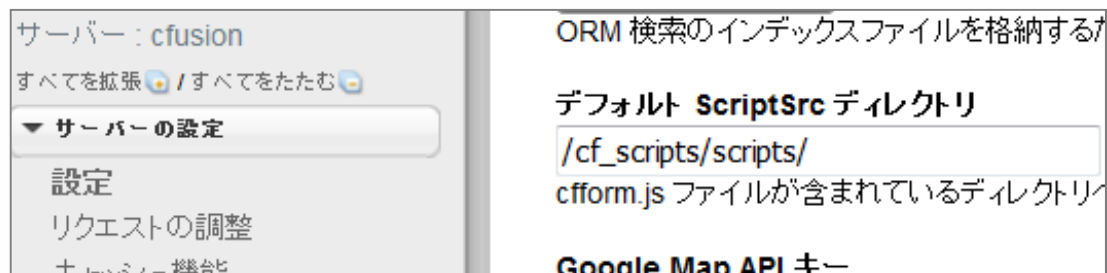


- cfform.js や AJAX、その他スクリプトが格納されていたフォルダを /CFIDE/ から分離

- CF11 以前
 - /CFIDE/scripts
- CF2016
 - cf_scripts

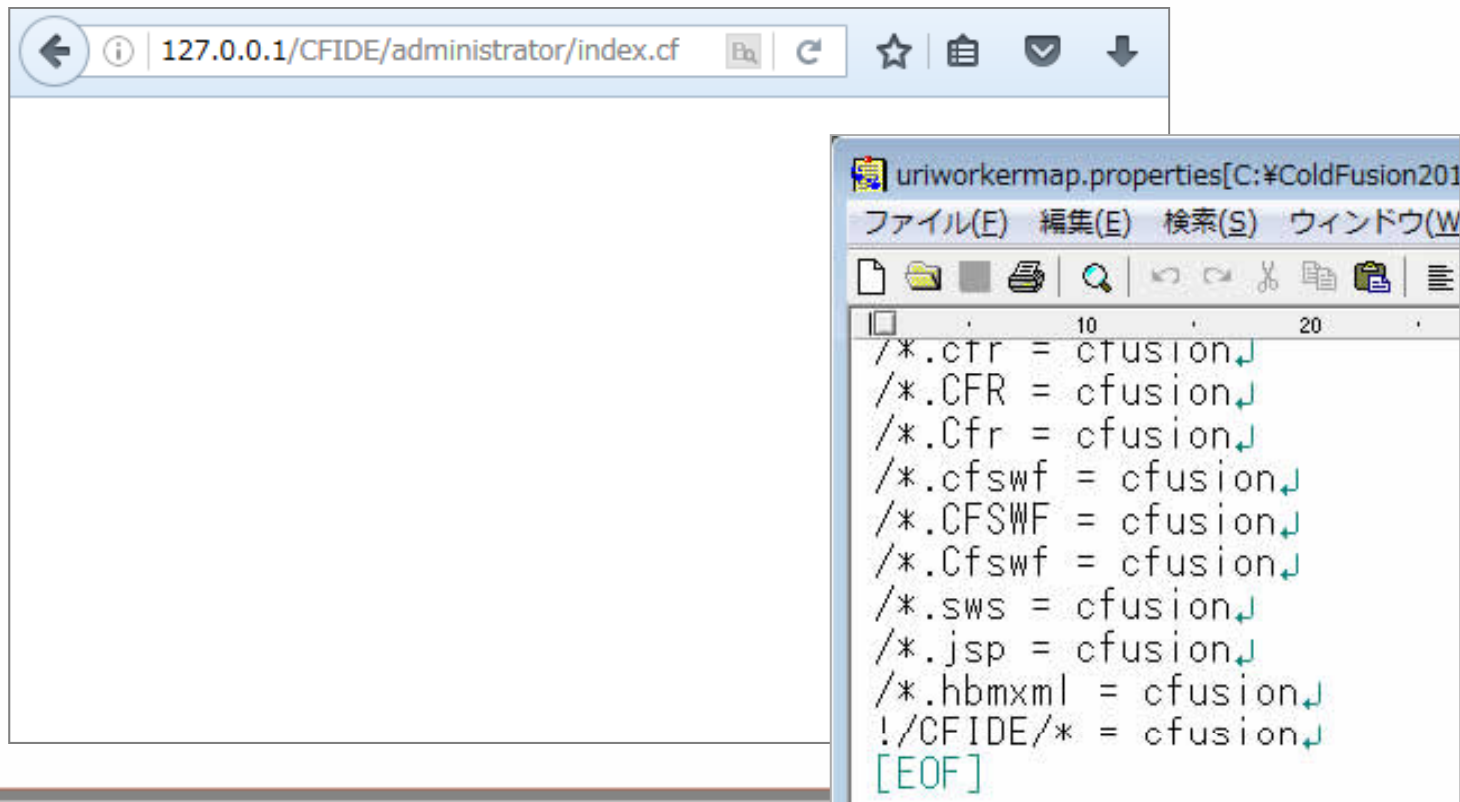
- さらにセキュリティを向上させる目的で、従来と同様にScriptSrcディレクトリの場所を変更する事も検討

- ColdFusion Administrator



外部Webサーバーから /CFIDE/ への アクセス制限

- 従来のバージョンの設定を真似して、手動で仮想ディレクトリ CFIDE を登録
 - ColdFusion Administrator を開こうとしても空白の画面になる



パフォーマンス改善に伴う内部処理の変更

■ CF2016では、一部の処理のパフォーマンスを改善

- 新たに追加された設定

- 配列の参照渡し、searchImplicitScopes、配列の非同期設定など

- 既存処理を変更

- クエリ、File・リスト関数、空白制御、ループ処理、など

(参考)

http://www.images.adobe.com/content/dam/acom/en/products/coldfusion/pdfs/cf2016/CF2016_Performance.pdf

※パフォーマンス改善に絡み、一部処理（クエリのコメント等）、キャッシュで不具合が確認され、**アップデート1で修正**された

※既存のアプリケーションを2016でテストする際は、念のため、上記に関連する処理で**エラーや問題が発生しないかの確認を推奨**

Java 8 利用による動作の制限

- Java 7 以下でしか動かない機能は、CF2016で制限となる
 - 独自の Javaライブラリを ColdFusion に追加して動かしている場合は、そのライブラリが Java 8 上でも動くかを確認する
 - ColdFusion に同梱されている機能での制限
 - 「Microsoft Access」「ODBC Socket」での日本語モード
 - ※CF2016では Accessはサポート外です
 - 以前のバージョンとの互換性のためドライバは同梱されているが、日本語に対応するための設定 (ServiceCodePage OS) を行うと接続エラー
 - Update 2 で修正された
<http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/cf-securelink-servicecodepage/>
- ⇒ODBC Socket などを使用したい時はアップデート2を適用する

その他

廃止・非推奨の主な機能

- ライブラリ側の開発終了 → 非推奨・サポート外に
 - YUI tool kit (cftree, cfcalendar, cfautosuggest, cfmenu)
 - Portlets, Report Builder, cfsprydataset
- Flash ベースのライブラリ → 非推奨、または、サポート外に
 - Event gateway (Flash Media server), Server Manager, Server Monitor, cfchart (format flash), Flash forms, cfupload (Flash), cfmediaplayer
- CF11 で非推奨となったもの → 非推奨・サポート外に
 - HTMLEditFormat を除いたすべて

<https://helpx.adobe.com/coldfusion/deprecated-features.html>

お問い合わせ先

株式会社サムライズ

アドビソフトウェア事業部 ColdFusion ビジネスユニット

E-mail: adobe_software@samuraiz.co.jp

<http://www.samuraiz.co.jp/>

※サムライズのホームページでColdFusion情報を公開中

<http://www.samuraiz.co.jp/adobeproduct/coldfusion/index.html>

(ColdFusion カフェテリア) <http://forum.samuraiz.co.jp>

(ColdFusion Associate) <http://cfassociates.samuraiz.co.jp>

ColdFusion は、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社)

の米国ならびに他の国における登録商標または商標です。

その他、記載されている会社名や製品ブランド名は、各社の商標または登録商標です。